

# 街を行く

第67回 奈良 Nara

## いにしえの大都市、喧騒とは無縁

観光立国ブームでホテルが大賑わい、開発競争も激化する日本で、いにしへの都・奈良はそれを横目に今日ものんびり時を数えています。

連日観光客でごった返している京都と対比的に、奈良は昔も今も静か。とりわけ今回スポットを当てる「西ノ京」は時が止まってしまったかのようです。平城京のど真ん中、日本仏教文化の中心地、「法隆寺」「薬師寺」「唐招提寺」といった大御所寺院が名を連ねるにもかかわらずです。まあ、法隆寺は観光客が結構いましたが、さすが聖徳太子が建立した日本最古の木造建築の貫禄でした。

さて、筆者今回のお目当ては「唐招提寺」です。鑑真の生涯を描いた井上靖原作の小説「天平の甕」が映画になって、観て感動して以来、一度は見てみたいと願っていたのです。

唐招提寺を不動産的にみると、立地は他寺院と比べてアクセスがよくありませんね。これは当時の政治介入を避けたい意図でしょう。施設の山門をくぐると教科書やテレビCMでお馴染みの金堂です。形状はシンプル。この寺を建立した鑑真和上の精神を反映したのでしょうか。

鑑真は、日本の若い僧達に熱心な招きで渡日を決意して5度失敗、盲目になりつつも6度目に来訪を果たしました。彼はもともと中国で将来を約束された高僧でした。皆さん、熱意にほだされたとっても、見ず知らずの国に行くために、地位や名誉を捨てたり、命を投げ出したりできるものですかね？



歴史教科書やテレビCMでもお馴染みの法隆寺五重塔と唐招提寺金堂



と書きながら筆者、自分の俗っぽさに啞然としております。

参拝者には鑑真の故郷である中国からの旅行者も多かったようで、静けさの中に聞こえる言葉のほとんどは中国語でした。彼らは古の高僧に礼を持ち御廟（鑑真和上のお墓）を前にとても丁寧に手を合わせていました。

奈良に来て考えたのは「静けさを保ちつつ訪日旅行者を受け入れる方法」についてです。訪日客に理解しやすい文化の説明、守れる参拝ルールづくり、そして何はななくともインフラ整備は急務でしょう。鑑真和尚には遠く及びませんが、海外から奈良の西ノ京を訪ね

るのは一苦勞ではないかと思った次第。観光立国が日本の成長戦略の目玉なのですから、国と自治体で仲良く考えましょうよ。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。